

有明高専 3度目準V

LSIデザインコンテスト

人の意思決定 回路で表現

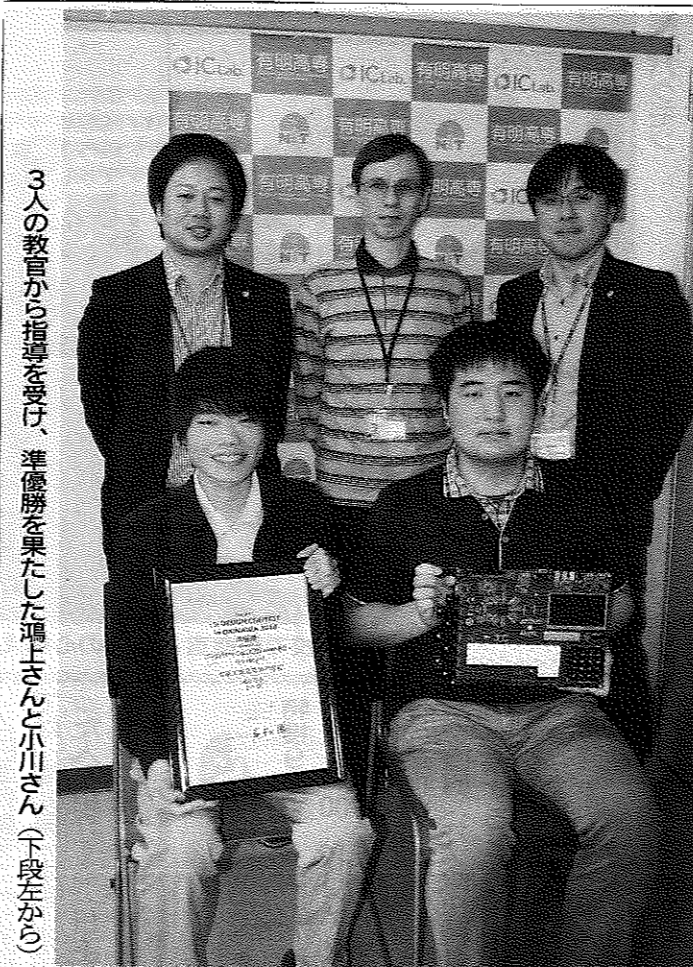
大牟田市東萩尾町、有明工業高等専門学校専攻科2年の鴻上^{こうかみ}図南^{さとしな}さん(21)と小川^{おがわ}翔^{しょう}さん(21)は「第21回LSI(高密度集積回路)デザインコンテスト」で準優勝した。同高専は2013年から参加しており、今回で通算5回目の入賞、準優勝は2年ぶり3回目の快挙。ギガファーム賞(協賛企業賞)も受賞した。

デジタルの集積回路設計者にとって国内最難関ともいわれているコンテストで、実行委員会と沖縄県主催、琉球大学工学部、九州工業大学情報工学部共催。国内外の大学・高専47校から90人以上が応募し、上位13チームが3月に琉球大学で行われた最終選考に進んだ。

鴻上さんと小川さんは、同高専の石川洋平准教授、ゴーチエ・ロウィック准教授、同高専寄附講座の野口卓朗特命助教から指導を受け、コンテストに初めて挑んだ。今回のテーマである「ニューラルネットワーク(神経回路網)は人間の脳の情報処理の働きをモデル

にした人工知能(AI)のシステム。人間の意思決定の過程を回路で表現するという課題。AIは何にでも利用できるが、研究を進めることで、より人間らしい

リアリティーのあるロボット製作なども実現できる」という。
「テストと修正を繰り返して、大変だった」と2人。鴻上さんはロウィック准教授に資料を添削してもらい、最終選考で英語でのプレゼンテーションも行った。準優勝という成績に悔しさはあるが、優勝者の発表が素晴らしいだったので、結果には納得している。来年こそは優勝を目指してリベンジしたい」と意気込みを新たにしていた。
(河野 美緒)



3人の教官から指導を受け、準優勝を果たした鴻上さんと小川さん(下段左から)